



薬粧連合×SDGs×自由研究

わたしたちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています



がんやく
“残薬”
についての調査研究

本紙はA4サイズ用に作成しております

はじめに

★この自由研究では以下について学べます

- “残薬”とはなにかを知る
- 家庭内の“残薬”を調査し身近な課題として捉える
- 課題に対する解決策を考える力をつける
- 残薬とSDGs、自分との関わりについて考える

★以下のSTEPを通じて順に取り組めます

個人差はありますが約1～2時間で完成するレベルの内容です

STEP1:この研究をえらんだ理由

STEP2: “残薬”とはなにか

STEP3:家にある薬を調べてみよう

STEP4:SDGsと残薬問題について

STEP5:自分にできること(解決策を考える)

STEP6:研究の感想・まとめ

★対象:小学校高学年～中学生

★保護者の皆様へ

残薬を身近な課題として経験してもらうため、STEP3で家庭内の薬を調査し書き出します。調査前にご家族の皆様事前に配慮頂けると幸いです(薬の確認を行う等)。

※巻末にヒント集を掲載しています。自由研究のサポートとしてご活用下さい。

STEP1:この研究をえらんだ理由

例:「残薬」という言葉を知らないから

例:医療、薬、健康、福祉に興味があるから

例:ネットで見たから、ニュースでみたから

例:家族や友人、先生から聞いて興味があったから

STEP2 “残薬”とはなにか

インターネットで調べてみたり、家族や身近に詳しくな人がいれば聞き取り調査してみよう。

STEP3 家にある薬を調べてみよう

家に薬があるか調べて、写真・文・絵などでまとめてみよう

※ご家族に許可をもらってから調べて下さい

●薬が【ある・ない】

→「ない」場合は理由を考えてみよう(例:余った薬は処分している等)

●薬が【ある】場合

→これから使う予定がなく、残ってしまった薬が【ある・ない】

●残ってしまった薬(=残薬)が【ある】場合

→どれくらいあったか、どのような薬か、なぜそうなったか調べて書き出してみよう

●残ってしまった薬(=残薬)が【ない】場合

→理由を考えてみよう(例:処方された薬はすべて飲み切っている等)

STEP4:SDGsと残薬問題について

- ・残薬と特に関係するSDGsゴールは何番だろう？
- ・どのようにそのゴールに関係するでしょうか？
- ・残薬が減ると、そのゴールにどう貢献するでしょうか？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



↓ゴールNo

↓ゴールNo

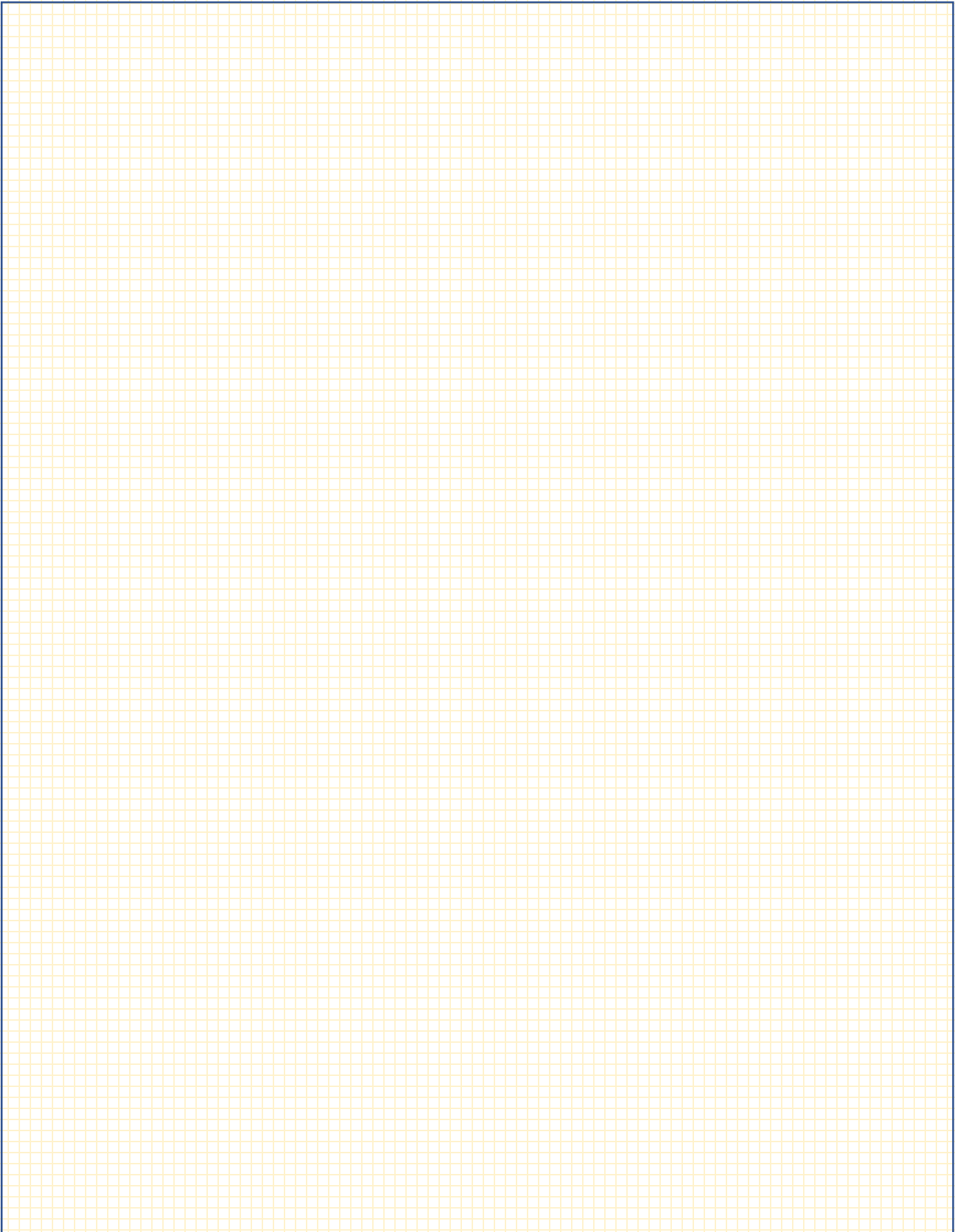
STEP5: 自分にできること(解決策を考える)

- ・薬を飲むときや使う時に気を付けることはなんだろう？
- ・健康でいると薬を減らすことができます。そのために気を付けることはなんだろう？
- ・どうすれば、使い忘れを防げるかな？いまある薬を整理整頓するとどうなるかな？

STEP6 研究の感想・まとめ

- ・残薬について調べた感想を書き出してみよう
- ・残薬について家族と話してみよう(それぞれの意見も書き出してみよう)

メモ



巻末ヒント集Ⅰ：残薬とはなにか

医師や薬剤師から処方された薬(医薬品)の飲み忘れや、全て飲み切るまでに治ってしまい、残ってしまった薬を「残薬(ざんやく)」といいます。厚生労働省や専門機関等の調査では、残薬削減効果を金額で換算すると年間で約100～6500億円にもなると推定されており、実際の金額は統計で出すことが難しいとも言われています。(参考1)

日本国内の医療費が年々増大している中で、薬剤費は医療費全体の約20%にあたります。(参考2)残薬を減らすことは、医療費の抑制につながるだけでなく、患者さんにとって、飲み間違いを防止したり、適切な薬の服用を促すことで治療効果の向上にもつながります。

やむを得ず発生してしまう残薬を減らす取り組みとして、現在、お薬手帳・残薬管理指導料・残薬バッグ(おくすり相談バッグ・ブラウンバッグ)などが進んでいます。家庭内で「残薬」が起こる原因は人それぞれです。皆さんの家庭に残薬はあるでしょうか。もし残薬があれば、現状について調査し、原因や課題、解決策、SDGsとのつながりについてこの自由研究通じて考えてみましょう。

参考1

医療保険財政への残薬の影響とその解消方策に関する研究(中間報告)
(平成27年度厚生労働科学特別研究)研究代表者 益山光一(東京薬科大学薬学部教授)
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000103268.pdf>

参考2

薬剤費等の年次推移について(中医協 薬-24.7.20)
<https://www.mhlw.go.jp/content/12404000/000966171.pdf>

巻末ヒント集2:

自分にできること(解決策を考える)

■「飲み忘れ」をしないための工夫

- ・飲み忘れ防止アプリの利用やタイマーの設定
- ・お薬カレンダー(壁掛けの透明袋)の利用
- ・ピルケースの利用

■「残薬」を減らす方法

- ・保管する前にもらった日付や開封日を明記しておく
- ・薬袋やお薬手帳と一緒に保管する
- ・年に一度、使用期限を確認する日を決めて、期限切れの薬は処分する
- ・風邪など単発的に受診する時は、残薬を持参して医師薬剤師に相談する
- ・「節約バッグ(おくすり相談バッグ、ブラウンバッグ)」の活用

「節約バッグ」とは?

“残薬”問題解消のため、手持ちの全ての薬を持参し、薬剤師に相談して整理してもらう持参袋のこと。(期限切れ等で使えない薬は処分し、使えそうな薬は自分に再利用します)。専用のバッグでなくても大丈夫です。

■大切なこと

- ・医師や薬剤師から処方された薬は、自己判断せず、用法・用量を守って使用しよう。
- ・不安なことがあれば専門家に相談しよう。

大人の皆様へ ～本紙作成の想い～

私たち薬粧連合は「世界の人々の健やかでいきいきとした暮らしへの貢献」を実現するため、2018年10月に医薬化粧品の産業別組織として発足しました。病に苦しむ患者さんに少しでも健やかな日々を過ごして頂きたいと考え日々業務に邁進していますが、一方で残薬が生じている現実もあります。

そこにはどのような背景や課題、解決策があるのかを学び、更にそれをどのように世の中に発信していく方法があるかを本研究会で検討しました。その一つの方法として、自由研究ガイドを作成しました。残薬について自分で調べ、家庭内の調査をしてもらうことで残薬とSDGsの課題を身近に感じて頂き、更にどんな大きな社会課題でも、自分自身の手で解決の一步を踏み出せることを理解し経験してもらいたいという想いを込めた構成にしています。

私たちSDGs研究会は「残薬」という言葉を皆さんに知って頂き、その言葉をいつか使わなくても良い未来がくるように、より健やかな未来を子供たちに残していきたいと願っています。この自由研究の取り組みを通じて、少しでも残薬について知って頂き、SDGsについて親子で話すきっかけとなり、ご家族皆様の「健やかでいきいきとした暮らし」への一助となりましたら幸いです。

